

一般社団法人 日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報 JASCG

- 1 ◎巻頭言
- 2 ◎第 36 回中央研修会のご案内
- 3 ◎第 37 回研究大会（京都大会）の報告//
スクールカウンセラー情報
- 4 ◎支部のキラリ
- 5 ◎新入会員紹介—愛知県支部—//
—支部活動報告—【埼玉県支部】
- 6 ◎—支部活動報告—【長崎県支部】
- 7 ◎研修委員会//調査研究委員会//認定委員会
- 8 ◎学会誌作成委員会//広報委員会
- 9 ◎ガイダンスカウンセラー関連情報//会員の著書紹介
- 10 ◎会長コーナー//事務局より//編集後記

第 78 号

巻頭言 私と教育相談 「わくわくする学会」を 次世代へ繋ぐ



会長
小玉 有子

第 8 代会長に就任いたしました、小玉有子（青森県支部）です。これまで春日井前会長のもと、全国理事・副会長を務めてまいりましたが、今後はさらに重い責務を担うこととなり、改めて身の引き締まる思いであります。歴代会長のお志とご功績をしっかり受け継ぎ、副会長・役員・事務局の仲間とチームで力を合わせ、本学会のさらなる発展に尽力してまいります。

副会長には藤井和郎氏（岡山県支部）・木村正男氏（岐阜県支部）・中林浩子氏（広島県支部）が、事務局長には米田成氏（広島県支部）、事務局次長には古谷雄作氏（兵庫県支部）・藤坂雄一氏（宮城県支部）が就任されました。どうぞよろしくお願いいたします。

本学会は2025年4月1日現在、34支部、会員数約1,650名となっています。2015年には約2,600名でしたので、この10年間で大きく減少したことになります。しかし2022年12月の生徒指導提要改訂を契機に、学校教育相談への関心は一気に広がりを見せています。実際、2024年度には97名もの新しい仲間が加わりました。

文部科学省も、不登校・いじめ・児童虐待・貧困といった多様な課題について、「未然防止・早期発見・早期支援・改善・再発防止」に至るまで、一貫した教育相談体制の強化を求めています。その中核を担うのが教育相談コーディネーターです。アセスメント、課題の早期発見、初動対応や情報共有、支援方針確認、関係機関との連携、そして支援の継続性と評価までを見通す、まさに司令塔としての役割が期待されています。

いまこそ、会員の皆様の経験や知識を持ち寄り、互いに学び合いながら、規模は小さくても、若い世代が「参加してみたい」「わくわくする」と思える学会をつくっていきましょう。皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。

★第36回中央研修会のご案内

第36回中央研修会については令和8（2026）年1月10日（土）・11日（日）に、文教大学越谷キャンパス（埼玉県越谷市）において、全面対面で実施することといたしました。

ご記憶の方も多いと思いますが、令和2（2020）年1月の第30回まで、中央研修会は国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に、1日半を使って対面で開催していました。今回は、会場こそ異なるものの、ほぼその当時のスタイルに戻そうとするチャレンジングな試みです。

コロナ禍を通してオンラインの良さが認識され、本学会の中央研修会や夏季ワークショップも含め、大規模の研修会については、オンライン（オンデマンドも含む）が当たり前になりました。アンケート結果を見ると、中央研修会や夏季ワークショップについても、開催方法としてオンラインを評価する方が半数以上はおられます。しかし「本学会にふさわしい研修会のあり方」について研修委員会にて議論を重ねた結果、「やはり対面こそがふさわしい」という結論に達した次第です。

全体の枠組みとしては、1日目は全体会、2日目はコース別講座といたします。1日目には学生食堂で懇親会も行います。

【1日目：1月10日（土）】全体会

1. 基調講演

（演題）これからのスクールカウンセリングと学校教育相談

（講師）石隈利紀氏（東京成徳大学特任教授）

2. パネルディスカッション

（演題）スクールカウンセリングの統合を目指して—学校教育相談、教育カウンセリング、学校心理学の立場から—

（パネリスト）

- ・小玉有子氏（弘前医療福祉大学教授／（一社）日本学校教育相談学会会長）
- ・藤川 章氏（文教大学非常勤講師／NPO 日本教育カウンセラー協会理事）
- ・田村節子氏（（一社）スクールセーフティネット・リサーチセンター代表理事／（一社）学校心理士認定運営機構事務局長）

（指定討論者）石隈利紀氏

（司会）会沢信彦（文教大学教授）

3. 懇親会

【2日目：1月11日（日）】コース別講座

<Aコース>

学びのユニバーサルデザインによる学び作り～教師主導から学習者中心への転換～

講師：高橋あつ子氏（早稲田大学教授）

<Bコース>

いじめ問題における聴き取りのコツ

講師：須藤 明氏（文教大学教授）

<Cコース>

ライフキャリアの視点からキャリア教育を考える

講師：辰巳哲子氏（リクルートワークス研究所主任研究員）

<Dコース>

学校教育相談を中心に据えた学級経営、集団づくり

講師：米田 成氏（梅光学院大学講師）

6年ぶりの対面での中央研修会です。会員の皆様のご参加をお待ち申し上げるとともに、同僚や仲間にも参加をお勧めいただくことを期待しています。

なお、遠方の方については、早めに宿泊予約をされることをお勧めいたします。

（文責：研修委員長 会沢 信彦）



「ありがとうございました ～第37回研究大会（京都大会） の報告～」

令和7年8月9日（土）・10日（日）、龍谷大学付属平安高等学校・中学校において、第37回研究大会（京都大会）を開催しました。記録的な猛暑のなか、全国から230名の参加者がありました。龍谷大学付属平安高等学校・中学校のご協力も厚く、高等学校・中学校の教室棟を丸ごと使用させていただき、研究会場間の移動などにもストレスなく、快適に研究大会を運営することができました。

今年度から総会を別日程で実施していただいたおかげで、初日の午前中に、大会テーマ「子どもの願いをつなぎ、分かち合う学校教育相談—多職種連携・協働によるチーム学校—」に沿った、一連の講演とシンポジウムを企画することができました。まず、文部科学省の総務由希氏による講演「学校教育相談に期待されることとは」、続いて野田正人氏による記念講演「多職種連携・協働によるチーム学校」、これらの講演をつなぐように本部・京都府支部合同企画シンポジウム「学校教育相談を軸にしたチーム学校の展開」という構成にしました。「チーム学校」の現状やめざす理念などを明らかにした上で、実践的な到達点や課題などが整理されたと考えています。

その後の実践事例・研究発表も大変活発で、口頭発表が19本、ポスター発表が6本、自主シンポジウムが7本と、発表の質・量ともに充実した研究大会になりました。実践事例報告が多く、近畿・石川ブロックの各支部にお願いした座長の皆さんの運営と助言によって、報告を終えた皆さんの達成感と安堵の表情が印象的でした。

また、受付で大会トートバッグをお渡しした際、多くの方から、京都らしいデザインにお褒めの言葉をいただきました。このトートバッグは京都府支部の会員が支援する二つの就労継続支援B型事業所（障害者総合支援法に基づく福祉サービス）にデザインと縫製をしていただいたものです。表には祇園祭の山鉾、裏面には京都五山の送り火を大会ロゴとともにデザインされています。研究大会終了後、それぞれの事業所に感謝状をお渡しすることができました。感謝状とトートバッグを事業所の壁に掲示しておく、と喜んでいただきました。創っていただ

いた方々とそれを使う私たちとの関係が、それぞれを励まし続けるように感じています。

26名の実行委員が1年間準備してきました。この1年間、ほぼ毎月の実行委員会に加えて、3回の研修会、約7回のカウンセリング学習会を実施してきました。昨年の9月に開いた「実行委員会LINEグループ」は、研究大会が近づくにつれて、頻度と内容量が増えていきました。このような濃密な時間を経て、「チーム京都」ができあがっていきました。当日は、龍谷大学付属平安高等学校を卒業し地元の大学で学ぶ4名の学生が会場案内や誘導機器の設置などに奔走してくれました。

皆さまとの出会いと、このような機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。

（文責：京都大会実行委員長 山岡 雅博）

★スクールカウンセラー情報

相談室

「長年続けて」

愛媛県支部 相模 健人



私はスクールカウンセラーとしてかなりの古株になります。1995年のスクールカウンセラー事業の開始時から、ある政令指定都市の学校巡回カウンセラーに始まり、これまで30年続けてまいりました。1998年に臨床心理士資格を取得し、県を移って正式なスクールカウンセラーとして勤め、更に大学に移っても兼業で続けており、いわばライフワークのようになっています。

現在は本職もあるので、中学校1校（校区内の小学校2校も担当）に行かせていただいています。週1回4時間、年間39回の勤務なので、できることは限られています。小学校から依頼があれば、1、2時間小学校に訪問して相談を行ったり、中学校の総体やテスト期間を利用して、学期に一度は小学校を訪問するようにしたりしています。そのときに目立った相談がなければ、お願いして授業見学させていただいています。WOWWアプローチ（Berg, Shilts, 2005）を活用し、授業内での児童の良い行動や態度を見つけて、授業後にほめて（コンプリメント）フィードバックしていくと、先生と児童の笑顔が見られることが多いです。また、気になるお子さんがいるクラスに入らせていただき、学級担任の先生と放課後に授業を振り返りながら対応

を考えていくこともあります。

中学校では、教室での給食準備を見せてもらう中で、前述と同じように生徒の良かったところをフィードバックしていくと良い反応が得られたりします。その流れで、お昼休みの相談室登校の教室に行き、登校してきた生徒とコミュニケーションを取ったりします。さらに、保健室で体調不良を訴えているお子さんとお話することもあります。

保護者さんの相談も小中学校ともに多いので、それぞれの保護者さんの求めるもの(Needs)を尋ね、それに合わせて進めることで、良い方向に向かえるよう援助しています。親子面接の場合は、双方の思いや考えを引き出しながら進めるようにしています。心理教育についても養護教諭の先生と連携しながら、少しずつ進めていっているところです。

スクールカウンセラーを長年続けて改めて思うのは、連携の大切さです。保護者、先生方、地域の専門機関のネットワークなど様々な方と児童生徒を支えていくことが重要だと考えています。そのネットワークの一つとしてスクールカウンセラーが機能することを願って、今日も勤めています。

(担当：吉野 竜太)

☆支部のキラリ！☆

「学校教育相談との出会い」

福岡市支部 仕田原 景子



私は教員 11 年目に、突然、委員会への異動となり、現在、福岡市教育委員会指導部教育相談課に勤務して 3 年目となります。それが私と学校教育相談との出会いであり、多くの福岡市支部の先輩方との出会いでした。それまで教育相談について、専門的に学んだことのなかった私は、「もっと早く勉強しておけばよかった」という後悔と反省のもと、日々研鑽を積んでいるところです。

今回、この原稿を書く機会をいただき、教員としての 10 年間と教育相談課での日々を自分なりに振り返ってみようと思います。

担任をしていた当時、私は、「分かる・楽しい授業をすること」を心がけ、「それを支える学級経営をすること」に力を注いでいました。どうすれば、

子ども達が、考えたくなる・学びたくなる授業になるのか、勉強会に行ったり、周りの先生からアドバイスをもらったり、書籍を参考にしたりしていました。また、授業を支える居心地の良い学級風土を醸成するため、エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、自己流で実践していました。今になって考えると、感覚で行っていたことの中に、教育相談に通じるものが実はたくさんありました。

そんな私が、支援センターの担当主事となり、毎日、不登校の子ども達と関わることになりました。最初は、不登校を経験し、心に傷を負った子ども達が、想像以上にデリケートなことに大きな衝撃を受けました。子ども達との接し方や声のかけ方、自分の支援の仕方でも良いのかと日々、対応に迷うことばかりでした。また、同時に、これまでの自分の指導が子どもたちを傷つけていたかもしれないということに気づき、自信をなくしてしまいました。

そのような時、同課の先輩方に誘っていただき、学会へ入会、教育相談について学ぶようになりました。そこで、自分が感覚で行っていた指導の根拠や意味、子ども理解の視点や接し方などについて知り、「こういうことが大事だったのだ」と納得できることが多くありました。また、支部の先輩方が、長年学んでこられているにもかかわらず、今なお学び続けられている姿からも、私も負けずに頑張らなくては…と奮起させられています。

教育相談との出会いは、私にとって教員としての幅を広げてくれるきっかけとなりました。今、学んでいることや教育相談の重要性について、これから、たくさんの先生方に広めていきたいと思います。

昨年、学会への入会と同時に、支部の事務局長という大役を任されました。右も左も分からないところを、先輩方が優しくサポートしてくださり何とか務めることができています。

昨年九州・沖縄地区研修大会を開催し、他支部の方々との交流ができたのも学会のおかげだと感謝しています。これからも、福岡市支部の皆様と一緒に、子ども達のため、先生方のためにどのようなことができるのか、教育相談について学びながら、考え、行動していきたいと思っています。

(担当：松本 直美)

★新入会員紹介—愛知県支部—

愛知県支部の新入会員として、水野司麻さんを紹介いたします。

水野先生は、愛知県立高校の教員としてお勤めになり、現在は愛知県総合教育センター子ども支援課こころの支援グループの研究指導主事です。

水野先生の言葉です。

「教育相談のことを考える時、私にはいつも思い出す出来事があります。それは今から数年前、私が当時勤めていた高校での出来事です。問題を起こしたある生徒について、今後の対応を話し合う会議で、どのような指導をするかという流れの中で、一人の先生がこう言いました。『必要なのは、指導ではなく支援ではないですか』と。私ははっとしました。そして、そこから私は支援とは何か、生徒指導と教育相談の一体化ということを考えるようになりました」

電話相談や来所相談で、さまざまな悩みを抱える子どもたちや保護者の方々と日々接し、教育相談の重要性を実感される中、私たち日本学校教育相談学会との出会いがありました。そして昨年度、当県にて開催された第36回研究大会に参加していただきました。そして「これからの学校教育相談の在り方について考え、話し合う場として役割を果たす」という言葉に強く賛同し、これからの学校教育相談はどうあるべきなのか、ともに考え、学びたいと入会していただきました。本会での学びが、いつの日か生徒たちへの関わりに生かされますよう、どうかよろしくお願いたします。

(文責：愛知県支部理事長 松原 正明)

★-支部活動報告-「埼玉県支部」

埼玉県支部は、50名の会員で活動しています。埼玉県支部では活動の目標を3つ挙げています。

1 会員の資質の向上

会員の資質の向上のためには研修会の充実が重要です。本部の研修委員会が主催する中央研修会や夏季ワークショップとのバランスを考え、支部の研修会は現場ですぐに役に立つ内容を選んでい



ます。そしてチラシの見出しに「先生とカウンセラーのための公開講演会」「実力アップのための公開講演会」「新しい視点が学べる公開講演会」というようにチラシを見た人が興味を持って参加できるように便宜を図っています。

2025年度からは研究発表の場を充実させます。若い会員が研究したことの成果や研究していることの内容や途中経過を発表する機会をきちんと位置付け、若手の育成に力を入れます。支部での発表により力をつけ、全国の研究大会での発表や学会誌に論文を投稿できるように支援します。また、これが刺激となり入会を希望する人を増やしたいと考えています。

2 関連団体との協力関係を構築

埼玉県内にはいくつもの生徒指導や教育相談に特化した研究団体があります。そこで、それらの団体との研修会を「共催」という形で開催し、研修の機会を増やしています。現在は「さいたま市生徒指導・教育相談研究会」（さいたま市の小・中学校校長会の研究サークル）と「トムの会」（埼玉県の特別支援教育を考える事を意識し学校、医療、福祉などもメンバーの声掛けで、15年ほど前にスタートした研修会。埼玉、東京、茨城、長野など広範囲の参加者がインシデントプロセス方式でZoomによる事例検討を行っている）と協力関係を結んでいます。また、埼玉県教育心理・教育相談研究会とも協力関係を深め、夏季ワークショップや研究活動に協力しています。これにより毎月2、3回の研修会に参加する機会が確保されました。

研修の機会が増えることは、「学校カウンセラー」の資格習得や資格更新にもつながります。若い会員が少しずつ増えてきました。すでに学校現場では中堅として活躍している人がいますので、そういう会員には「学校カウンセラー」の資格を取得し、更に活躍して欲しいと思っています。

3 県内の教育委員会や学校への協力

学校現場の多忙化に伴う「働き方改革」の影響で、研修会が減少傾向にあります。教育相談に関する研修も例外ではありません。

こうした現状を踏まえ、教育委員会が開催する研修会や校内研修への協力を計画しています。具体的には、講師派遣に応じる会員を募集し、担当できる内容や派遣の可能な校種や地域をまとめて「講師リスト」を作成しました。すでに本部でも作成していますが、校内研修なら応じたいという会員もいます

ので、その意思を尊重し支部独自のものを作成しました。

会員の学会での研究や学びが、子どもたちや保護者、それに学校や地域に還元され、信頼される学会、頼られる学会として発展するように努力したいと思っています。

(文責：埼玉県支部理事長 鈴木 教夫)

★-支部活動報告-【長崎県支部】

学校教育相談研究35号において、長崎県支部活動報告が掲載されておりませんでした。

確認不足により、大変ご迷惑をおかけしました。以下、長崎県支部の活動報告となります。

【長崎県支部】

1. 支部総会(6月 紙上)

○令和5年度事業報告・会計報告

○令和6年度事業計画 ○役員改選 ○その他

2. 理事役員会

(1) 第1回 令和6年4月13日(土)

大村市中央公民館

(2) 第2回 令和6年8月17日(土)

長崎県教育センター

(3) 第3回 令和7年2月1日(土)

長崎県教育センター

3. 活動内容

(1) 支部研修会

① 第1回 令和6年8月17日(土)

長崎県教育センター

○実践発表「ストレスを減らす10の引き出し」

発表者 山田喜典氏(長崎県支部理事・スクールカウンセラー)

○講義 「児童生徒の自制心の育み方」

講師 杉野伸治氏(身体と心のコンディショニング施設 サンクス代表)

② 第2回 令和7年2月1日(土)

長崎県教育センター

○事例研修会「不登校」：グループ演習

提案・進行 戸田朋彦氏(長崎県支部理事・長崎県教育センター)

○講演「不登校の子どもたちの願いと支援」ー子どもとともに生きるということー

*ケース会議の考え方と具体的な展開に

ふれて

○講師 春日井敏之氏(日本学校教育相談学会会長・立命館大学名誉教授・近江兄弟社高等学校校長)

(2) 子どもに寄り添う研修会

③ 第1回 令和6年6月29日(土)

大村市中央公民館

○事例検討会「不登校児童 A さんの支援を考える」(長崎県支部会員)

インシデントプロセス法(簡易版)による事例検討

○ミニ講座「校内不登校対策支援の活性化について」

松永博幸(長崎県支部理事長)

④ 第2回 令和6年11月2日(土)

悪天候のため中止

⑤ 第3回 令和7年1月11日(土)

佐世保市総合教育センター

○事例検討会「日本語支援が必要な生徒への支援の在り方」(長崎県支部会員)

○ミニ講座「『登校拒否児』?~『望み』はないが『光』はある~」

松永博幸(長崎県支部理事長)

(3) その他の活動(広報活動) エッセー

「理事のつぶやき」のHP掲載 毎月更新

4. 役員

理事長 : 松永博幸

副理事長 : 橋 貞幸、山口博徳

理事 : 山田喜典、林田栄治、西岡哲男、木原修一、諸熊修一、川口貴晴、鎌田 博、川波寿雄、荒木寿美子、松添秀喜、伊東健史、戸田朋彦

事務局 : 林田栄治(事務局長・理事兼務)、山田喜典(子どもに寄り添う研修会主・理事兼務)、川口貴晴(子どもに寄り添う研修会/副・理事兼務)、荒木寿美子(会計・子どもに寄り添う研修会/副・理事兼務)、木原修一(広報・理事兼務)

監査 : 池永義則

顧問 : 尾崎洋一郎

(文責：長崎県支部事務局長 林田 栄治)

★研修委員会

7月27日(日)にZoomによるオンラインで第26回夏季ワークショップを開催いたしました。参加者は117名を数え盛況でした。

アンケート結果から参加者の感想を紹介します。

<Aコース>

問題解決志向のアプローチ面接とエクスポージャーを意識した面接についてわかりやすく講義をいただき、大変勉強になりました。

<Bコース>

「心理的安全性」はよく耳にする言葉ですが、一色先生のお話を伺いながら、改めてその具体的な意味や位置付けを知ることができました。

<Cコース>

子育てバーンアウトという名称が一般化され、だれもが陥る危険性が周知され、サポートできる社会・企業・国になるべきだと思いました。

<Dコース>

ブリーフミーティングによって、短時間で効率的にケース会議を行い、困っている子どもたちや保護者の力になれそうです。

<Eコース>

子どもたちが自分で修復する力を持っていることに気づきました。ナラティブ・セラピーを意識して行いたいと思います。

<Fコース>

論文作成についての基礎的な知識と方法を身につけることができたとともに、グループワークの話し合いも非常に有意義でした。

(文責：研修委員長 会沢 信彦)

★調査研究委員会

令和7年度総会でご承認いただき、引き続き調査研究委員長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。

調査研究委員会では、会員の皆様にアンケートやインタビューにご協力いただきながら、「学校における教育相談のあり方」について、①教育相談コーディネーターに関する研究、②教員に求められる教育相談の力に関する研究を進めてきました。8月の第37回研究大会(京都大会)では、昨年に続いて自主シンポジウム「学校の教育相談体制の充実をめざして②—教育相談コーディネーターの役割、教員に求められる教育相談の力—」を行いました。委員

を代表して、住谷委員、高田委員、藤坂委員からこれまでの研究結果について話題提供があり、指定討論の藤原忠雄先生から、教育相談コーディネーター経験者のインタビューから見出された「学校教育相談体制が機能している状態」6側面の関係性、教育相談体制を構築・維持するための必要要件と学校教育相談活動との関連、またアンケート調査から見出された教員の「教育相談の資質・能力」と総合的な「教師力」との関連などについてご質問をいただきました。また、フロアの先生方から各地域や学校の教育相談体制や、教員の教育相談の力について多くのご意見をいただきました。ありがとうございました。今後さらに検討を進め、研究結果を学会誌でもご報告できるようにしていきたいと思います。

(文責：調査研究委員長 金子 恵美子)

★認定委員会

この度、認定委員長を務めることになりました千葉県支部の荒井明子です。どうぞよろしくお願いします。

○第4回学校カウンセラー事例研究会・情報交換会の開催及び事例募集について

令和5、6年度に学校カウンセラーを取得された皆様を対象に、令和7年11月22日(土)10:00~12:00 オンラインにて、学校カウンセラー事例研究会・情報交換会を開催します。事例研究会の事例は参加者の皆様から募っています。様式は問いませんので日頃の実践をA4用紙1~2枚にまとめ事前に提出をお願いします。参加及び事例提供をお待ちしております。

○学校カウンセラー資格更新対象者について

今年度の更新対象者は登録証明書の有効期限が2025年及び2026年3月31日の皆様です。対象の皆様には申請書類を郵送させて頂いております。締切は12月20日(土)です。どうぞ奮ってご申請ください。

○学校カウンセラースーパーバイザー資格更新対象者について

学校カウンセラースーパーバイザー資格を令和元年度に1回目の更新をされた皆様、令和2年度に新規取得された皆様は、今年度更新対象者になります。申請締切は12月20日(土)です。郵送させて頂いております申請書類をご覧の上ご準備をお願いします。

(文責：認定委員長 荒井 明子)

★学会誌作成委員会



学会誌作成委員会は学会誌第 36 号の刊行に向けて活動しています。『学校教育相談研究』への投稿締め切りは 8 月末日ですが、9 月に開催された第 37 回研究大会（京都大会）発表者は 10 月末日となります。多くの投稿をお待ちしています。

学会誌に投稿された論文は、令和 2 年度に改訂された審査方法により学会誌作成委員会委員及び協力委員の複数により論文審査されます。その結果が「掲載する」の場合は当該年度の本誌に掲載します。「修正の上掲載する」の場合は修正終了後、直近の本誌に掲載します。審査結果が「修正の上再審査する」の場合は、委員会の意見を基に修正し、委員会の指定する期限内の再投稿を求め、再審査となります。その結果が「掲載する」「修正の上掲載する」は、上記同様の扱いとなります。

再審査の結果が「修正の上再々審査する」の場合は、委員会の意見を基に修正し、委員会の指定する期限内の再々投稿を求め、委員の再々審査を行います。再々審査の結果が「修正の上新規投稿として審査する」の場合、修正した原稿の投稿を可能としますが、新規同様の審査となります。

これまでに論文作成に係る研究指導を受けていないが投稿を検討されている会員の方は、「論文作成連続講座」への参加が論文作成に資する機会になるかもしれません。本年度のご案内は、令和 7 年 10 月下旬に掲載します。

（文責：学会誌作成委員長 中村 豊）



★広報委員会

広報委員長 2 期目を務めさせていただきます栃木県支部の松本直美です。よろしくお願いします。

今年度は、本部役員が大幅に改選される年になりましたが、広報委員も切り替え時期を迎えており、3 名が退任し、新委員 3 名が選任されることになります。まず、長年広報委員会を支えてこられた東京都支部の望月保美委員（原稿の執筆依頼や会計などを担当）、栃木県支部の小川正人委員（元副委員長、「先輩に聞く」、「支部のキラリ」などを担当）が退任されます。また、2 期だけでしたが「SC 情報」の立ち上げから携わり、毎回有益な内容を会員に届けられるように尽力された埼玉県支部の鈴木由美子委員も退任となります。

そして、岐阜県支部の郷田賢委員が、本部事務局協力員から広報委員にスライドし、引き続き事務局と連携してメルマガ配信を担当します。ほかにも新委員 2 名が承認される見通しですので、次回紹介します。

広報委員会の主たる業務は紙の会報の発行で、今後もそれが続くと思います。しかし、長い目で見ると過渡期であり、SNS やメルマガ、クラウドツール等に移っていくのかもしれませんが、これから、メルマガは事務局と連携しながら、広報委員会が発信することになります。さらに、お知らせしているように学会公式 SNS も運用を開始しています。担当の広報委員は、安定的・効果的な活用を目指して、頑張ってくれています。

学会公式 SNS での発信は、学会 HP の「研修会案内 HP 掲載手続き」から希望できます。研修案内以外の活用方法やフォローするための情報は、リーフレットの作成を進めていますので周知まであと少しお待ちください。

会報はもちろん、メルマガ・公式 SNS について、会員の皆様からの忌憚のないご意見やご要望をお待ちしています。学会 HP から直接、事務局や広報委員に、あるいは支部理事長や事務局長を通して、全国的な会議で声をお届けください。

（文責：広報委員長 松本 直美）



★ガイダンスカウンセラー関連情報

2025 年度実践力強化研修が行われ、大変好評でした。

1. 講座A (81 名参加)

「アセスメントの実際 WISC-V実践編 (アドバンスコース)」

7月27日(日) 9:30~15:30

講師：小林玄(東京学芸大学准教授)

- WISC・IVからVへの変更点、特徴についてわかりやすくまとめていただき理解できました。
- 各ステップについて、具体的かつ簡潔に説明していただき理解が進みました。

2. 講座B (64 名参加)

「RAMPSによる子どものSOSの発見とこれからのチームでの支援のあり方」

8月24日(日) 13:30~16:30

講師：北川裕子(RAMPS代表理事、
東京大学大学院教育学研究科特任助教)

- 知りたかったことを明確にお話しいただき大変参考になりました。早速職場で共有したいと思います。「自殺は防ぐ努力が出来る死」「自殺について聞いたからといってリスクを上げることはない」とsaisyubanでも勇気づけられました。私が経験したケースもまさにノーマークの生徒でした。学校に是非ともRAMPS導入を希望します。

3. 講座C (59 名参加)

8月31日(日) 13:30~16:30

「学級経営の基礎・基本と充実」

講師：赤坂真二(上越教育大学教授)

- 不登校児童の増加を課題と考えている今、あらためて学級経営についてじっくり考える機会となり、非常に有意義でした。
- 実践的かつ理論的で、こういう分析は説得力があると思いながら研修を受けさせていただきました。ありがとうございました。

一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会HP：<https://jsca.guide>

(文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事 学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー 加勇田 修士)

★会員の著書紹介

藤井和郎著

『加害者の指導と支援でいじめを減らす』
(遠見書房 1600円+税)

日本学校教育相談学会
副会長の藤井和郎先生
(前岡山県支部理事長)

は、長年にわたり岡山県の学校教育相談の発展をリードし、多くの人材を育成されています。藤井先生は、カウンセリングマインドを基にした春風のような人柄で、中学校教員、教育行政、校長、大学教員として多くの実践を重ねてこられました。この度の「いじめ加害者」に注目した同書にも、現在から将来の教育関係者への藤井先生の熱い思いや願いが託されていると思います。私は、大学生の言葉や事例を読む度に、何回も胸に熱いものを感じました。

いじめは加害者があって起こるので、発達支持的生徒指導により、加害者が出現しない学級・学校づくりが必要であること。被害者への対応がリアクティブであるのに対して、加害者への対応はプロアクティブであること。また、加害者が二度といじめをしないための真の反省へと導く指導・支援は、教育行政・スクールカウンセラー・学校によるチーム支援の考え方が有効であること等々、一冊まるごと適切ないじめ理解と具体的で有効な対応への知見にあらわれています。

現在、いじめ問題は認知件数・重大事態件数とも増加の一途であり、深刻な学校問題の一つとなっています。教職員をはじめ関係者が一丸となって対応することが求められています。同書にもあるようないじめ問題に起因する悲しい出来事を少しでも未然防止するために、同書の内容を関係者が共通理解し、連携・協力・協働することが大切だと思います。

藤井先生が校長であったとき、私は教頭としてご一緒させていただきました。「松本さん、いつもありがとうございます。」毎日のように笑顔で掛けていただいた言葉を思い出しました。

(文責：岡山県支部副理事長 松本 一郎)



★会長コーナー

2023年度、小・中学校における不登校児童生徒数は34万6482人でした。いじめの認知件数（小・中・高等学校および特別支援学校を含む全校種合計）は73万2568件に上り、いずれも過去最多を記録しています。



文部科学省は、多様な子どもの学びや居場所を保障するため、以下のような制度を整備しています。

校内教育支援センターは、「教室には入りにくい」「学校には来られる」という子どもにとって大切な居場所を提供する機能を持ちます。**学びの多様化学校**は、不登校や通学困難など多様な事情を抱える児童生徒に、自分らしい教育の形を柔軟に提供するために設けられた特例校です。最終的には全国で300校の指定を目指しています。

そしてここでも、教育相談コーディネーターの役割が期待されています。

校内教育支援センターでの役割

- ・利用対象児童生徒に関する情報整理
- ・教職員・保護者・外部機関との連携調整
- ・個別支援計画の作成・見直し
- ・支援内容の評価 等々

学びの多様化学校での役割

- ・入学・在籍に関する相談調整・情報整理
- ・個別支援計画の作成・共有・調整
- ・進路・復学支援、社会的自立に繋がる支援
- ・地域や外部資源との接続 等々

これからは、「学びの多様化」や「校内の居場所づくり」がますます重要になります。その実現のために、私たちは、「繋ぐ」・「調整する」・「支援を継続する」力量を、さらに高めていく必要があると思います。

最後になりましたが、8月9日（土）・10日（日）に京都市（龍谷大学付属平安高等学校・中学校）で開催された第37回研究大会には、200名を超える会員の皆様にご参加いただき、盛会となりました。猛暑の中、準備にご尽力くださった実行委員会の皆様、そして全国からご参集くださった会員の皆様に、心より御礼申し上げます。

（文責：会長 小玉 有子）

★事務局より



今期より新しく事務局長を務めさせていただきますことになりました、米田 成（よねだしげる）と申します。慣れないことも多く、会員の皆様にご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、以下の3つを目標に尽力してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

- ・会員の皆様のためになる学会
- ・学ぶ仲間を増やすことのできる学会
- ・学校教育相談を通じて日本中の学校を子どもも先生も楽しい学校にできる学会

令和7年5月31日（土）の役員（社員）総会、6月22日（日）の支部代表者会、7月19日（土）の総会にて、令和6年度の事業報告・令和7年度の事業計画等が承認されました。

名誉会員に柴崎武宏氏（埼玉県支部）、相馬誠一氏（埼玉県支部）が承認されました。

（文責：事務局長 米田 成）

★編集後記

今回は、本部役員の入れ替えがあり、広報委員の中でも役割の引継ぎをしながら執筆依頼や原稿の回収、編集・校正を行うという数年に一度の難しい発行作業でした。関係者の皆様、広報委員の連携・協力があり、何とか乗り切ることができました。

これまで毎回原稿を執筆してくださった旧役員の皆様、大変お世話になりました。新会長をはじめとして、新たに事務局長や委員長となられた皆様、これから会報を通して、効果的な広報や啓発をよろしく願います。

（文責：広報委員長 松本 直美）

一般社団法人日本学校教育相談学会 会報
第78号

令和7年10月20日発行

発行 一般社団法人 日本学校教育相談学会
会長 小玉 有子

編集 一般社団法人 日本学校教育相談学会
広報委員会 委員長 松本 直美

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄3-11-28

一般社団法人 日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <https://www.jascg.info/>